

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500349		
法人名	社会福祉法人友和会		
事業所名	グループホーム あさぎり		
所在地	〒267-0057 千葉県千葉市緑区大木戸町1200-69 電話 043-205-6601		
評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年3月31日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは緑が多く広々とした環境下に位置している。園芸療法の実践を通じて、四季折々の季節を感じて、ゆったり、のんびり暮らせ過ごせるように取り組みをしているのが特徴である。法人の創業者が目的としている「大きな家族」という理念がよく活かされている、との家族からの理解がある。利用者も職員もいつも明るいとの声が多く、食事の時間も楽しそうである。グループホームが所属している「社会福祉法人友和会」は、特別養護老人ホームや各種の介護関係のサービス部門を運営しており、この法人の総合力には、家族と地域からの大きな信頼がある。

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤	9人, 非常勤 9人, 常勤換算12.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1.2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	180,000円	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	380円	昼食 500円
	夕食	500円	おやつ 昼食に含む
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	65歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院・篠崎医院・坂の上の外科・柏戸病院・ちはら台整形・デンタルサポート
---------	---

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の報告書にあった「職員により対応の違いがある」との指摘について、運営推進会議で議論がなされ、「内容にもよるが、違う場合があることは考えられる」との理解があった。評価されたことは職員全員が周知しており、家族会議の言葉に甘えることなく、真摯に対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作成にあたっては、ケアにおける評価の重要性を理解しているリーダーがユニットごとにそれぞれ纏めて作成した。家族は評価に高い関心を持っており、アンケートの高い回収率に繋がっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は隔月で開催している。運営状況の報告、情報や意見、助言を受け、サービスの向上に活かしている。市町村との連携では、地域包括支援センターと連携した講座の開催や、県や市からの要請による講演等への協力をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や電話での際、運営推進会議等で利用者の暮らしぶり等を報告しており、緊急時や体調不良などには随時連絡を行っている。又、毎月の請求書送付の時には小遣いの明細と用途の報告、ホームでの暮らしぶりがわかるような便り「福寿草」を同封している。運営推進会議では、家族が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりをしながら具体的な事柄への理解と協力を呼びかけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の草取りや清掃活動、敬老会などに参加したり、中学生の体験学習を実施するなどし、地域との交流に努めている。これからもいろいろなイベントを企画し地域の人に参加して頂き、コミュニケーションを図れるようにしたいとの思いがある。又、県や市から或いは地域からの要請による、認知症に関する講演等への協力をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は[ゆったりと楽しく 自由とありのままの暮らし 一緒にケア お互いをケアされるケア 暮らしの喜びと自信を いつも同じなじみの環境]である。それぞれの言葉に事業所の思いが見て取れる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具現化するために基本方針を作成し、職員で共有している。新任時の教育や毎月の会議での指導に加え、管理者・リーダーは現場で気がついたときにその都度、確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の草取りや清掃活動、敬老会などに参加したり、中学生体験学習を実施するなどして地域との交流に努めている。これからも様々なイベントを企画し地域の人に参加して頂き、コミュニケーションを図れるようにしたいとの思いがある。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施された評価報告書は職員全員が周知しており、又自己評価の作成にあたっては、ケアにおける評価の重要性を認識した上でユニットごとにリーダーが纏めて作成した。家族は外部評価に大きな関心を持っており、アンケートの高い回収率に繋がっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センター職員、民生委員、町会長、家族代表、施設側委員など10名で隔月で開催している。運営状況の報告、情報や意見と助言を受けサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携した講座の開催や、県や市からの要請による講演会等への協力をしている。千葉県グループホーム連絡会に参加し、行政との懇談会を定期的で開催したり、必要に応じて直接市役所に出向くようにする等、連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との面会や電話、ならびに運営推進会議で利用者の暮らしぶり等を報告している。緊急時や体調不良などには随時連絡を行っている。又、毎月の請求書送付の時には小遣いの明細と使途の報告、ホームでの暮らしぶりがわかるような便り「福寿草」を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常や暮らしの中で家族が気軽に意見が言えるような雰囲気づくりをしながら具体的な事柄への理解と協力を呼びかけている。運営推進会議では、外部評価のアンケート、おむつ給付、外出や行事に関すること等をテーマとし、ご意見を頂き運営に反映させている。	○	夜勤体制が少人数であり、重圧を感じる職員がいる。利用者家族等アンケートでもその体制に対する心配の声がある。法人ぐるみで早急な対策をとることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時も出来るだけ長く勤務できる人を採用し、異動も極力無いように配慮している。退職があった場合は、速やかに家族にお知らせをし、施設内では利用者へのダメージにならないよう職員全員でカバーしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成にはマンツーマンによるOJT教育がベストと考え、シフトを組む先輩職員全員で新任者の教育を実践している。又、外部講習では職員の職種や経験に応じて研修の機会を提供し、職員のケアの質の向上に努めている。認知症実践者研修は常勤職員はほぼ全員が受講した。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて地域交流会を行い地域での連携を図っている。情報交換・助言を得たり、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問など行いサービスの質の向上を行っている。法人内の別のグループホームの利用者や職員との交流も図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、家族から今までの生活歴や現在の状況などを詳しく伺い、家族からもセンター方式によるアセスメントシートに書き込むとともに、それらの情報を基に介護計画を作成、提示して理解を得ている。本人とも面談し、気の合いそうな職員や利用者と一緒に過ごし徐々に馴染めるようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者はホームでの生活、買い物、外出などを職員と一緒にしている。その中の会話で季節の行事の慣わしなどの話から、人生の先輩として敬い信頼関係を築き、支えあう関係ができているようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握を、本人や家族から直接聴くことが出来る時は、希望に沿うように努めている。それが出来ないときは、本人の日常の表情や喜こんでいる顔、態度の変化などでその真意を掴むよう、職員で話しあって、観察をして、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は毎月行っているケアプラン会議で利用者個々の状態や評価を話し合い、それまでの介護計画や家族からのモニタリングの結果や要望、センター方式の研修の情報やアイデアをもとに作成している、同計画は家族に説明し同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に3ヶ月に一度見直している。その他利用者の状態に変化があったときや、事故、ヒヤリハットなどがあった時などは医師の診断を基に職員間で話し合い見直しを行い、家族から了解を得ている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している施設を利用して、お互いの利用者が、一緒に行事をしたり、ショートステイの利用もできる。又、地域の方のホーム見学や、認知症サポーター養成講座への講師派遣、中学生の体験学習にも応じ、積極的に認知症を知ってもらう機会に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの所在する千葉市緑区内に利用者のかかりつけ医が居る場合は、看護師が付き添って受診している。緑区以外の利用者には家族に付き添いをお願いして受診している。診断記録も預かり、協力病院や法人の嘱託医とも連携が深く適切な医療支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者、家族と十分な話し合いの上、対応を詳しく記載した「看取りにおける考え方の指針」を取り交わし署名、捺印し同意を得て方針を共有している。又職員は看取りについての勉強会も行っている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員にはプライバシーに関するマニュアルがあり、それに基づき人権を損なわないように、日常の会話や、排泄の誘導などには気を配っている。個人情報に関する取り扱いは退職後も含め厳重に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の暮らし方はあるが、できるだけその人らしい生活ができるよう支援している。散歩や買い物には職員も同行し、手芸の好きな利用者には材料を提供したり、写真が趣味の利用者には行事の撮影などをお願いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け、片付けなど職員と一緒にやっている。又週に2回、献立、買い物、料理まで利用者と職員に任される日があり、家庭菜園のナス、さつまいも、薬物などが天ぷらや漬物に利用されている。外食も3ヶ月に1度あり利用者は楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週3回、併設の大浴場を利用して入浴している。浴槽は車椅子にも対応でき、手すり、階段があり安全にも配慮され、気の合った利用者同士賑やかに温泉気分が味わえる。個別に入浴したい利用者にはホーム内のユニットバスで対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には食事作りや片付け、掃除洗濯物たたみ、ホーム内の草花や観葉植物の水遣りなどをお願いしている。隣接しているホームの畑づくりでは近所の農家からのアドバイスを受け作業を行っており、気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りは花や野菜農家もあり、静かで自然豊かで散歩には良い環境である。野球観戦に千葉マリスタジアムに出かけたり、イチゴ狩りや外食会などには家族も一緒に参加をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物は中庭を囲んだ回廊式で、玄関もガラス張りで利用者がどこにいるか見渡せるようになっていたので、日常鍵はかけていない。しかし通院などで職員が手薄な場合はやむを得ず施錠するが、職員は鍵をかけない介護支援を心掛けている。夜間は保安のため施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて職員の緊急連絡体制が出来ている他、地域住民や消防団と連携がとれるようになっている。避難訓練は併設の施設や地域の障害者の施設と一緒にいき、災害時に助け合う仕組みになっている。又ホーム内にはAEDも設置している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士が作成し栄養バランスに配慮されたものになっている。業務日誌に摂取した水分と、食事の量を記入して、糖尿病や心臓病の利用者にはチェックを入念に行い、利用者の状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幅の広い廊下を利用してベンチのように座る場所や、リビングを兼ねたレストランには掘炬燵のある畳の部屋もあり、寛げるスペースになっている。採光や暑さ対策にロールスクリーンを利用し、換気もこまめに調節し、乾燥を防ぐ為に加湿器も備えている。周囲の自然も含めて居心地良い環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口にはトールペイントの表札がかけられてあり、室内には洗面所とクローゼットが備え付けてある。又、今まで利用者が使用していた冷蔵庫や電子レンジが持ち込まれ、園芸好きな利用者の部屋には観葉植物の鉢が置かれ、自分らしく過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。